

普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)3月15日
所属名：東近江農産普及課東部
番号：D23022
部門分類：150(野菜)
発信者名：井上、野口、猪田、橋本

グリーンな栽培体系への転換サポート事業現地検証報告会 ～人にも環境にもやさしい儲かる農業を目指して～

東近江地域では、JAグリーン近江管内の秋冬キャベツ栽培において、グリーンな栽培体系への転換サポート事業に取り組み、「セル成型苗への定植前リン酸施用技術」と「底面給水育苗技術」を組み合わせた省力的で環境にやさしい技術体系の検証を行っています。そこで、技術の普及を図るため、2月16日にG-NETしがで現地検証報告会を開催したところ、生産者や関係機関から約60名が参加されました。

報告会では、当課から現地検証ほ場4か所の結果を報告し、検証した技術体系の導入により、労働時間およびほ場へのリン酸施用量の削減が可能になることを説明しました。また、和歌山県農業試験場から定植前リン酸施用技術の研究成果について、JAグリーン近江からは過去の土壌分析結果に基づく管内の有効態リン酸マップについて紹介いただき、生産者の理解が深まりました。報告会后に実施したアンケートでは、回答者27名のうち、19名が定植前リン酸施用技術、11名が底面給水育苗技術の導入を検討したいとのことでした。

この技術以外にも、緑肥の種類と効果について雪印種苗から情報提供がありました。秋冬キャベツでの栽培取組事例を当課から紹介し、減化学肥料・減化学農薬栽培への生産者の関心が高まりました。

今後は、検証結果をもとに作成した栽培技術マニュアルを配布して技術の普及定着を図り、人にも環境にもやさしい儲かる農業の実現に向けて支援していきます。



写真1 現地検証報告



写真2 底面給水育苗の展示